

イサキ釣り

海の安全推進アドバイザー 小野信昭

イサキは東北地方以南の日本沿岸で、外洋に面した潮通しのいい根（岩礁）周りに多く分布し、群れで行動する魚です。均整のとれた魚体が繰り出す強い引きと食味の良さで釣り人から人気の高いターゲットの1つです。



関東ではイサキの解禁日を6月1日
としているところが多い



イサキの塩焼き。シンプルな料理ですが、
イサキの旨さを実感できる食べ方です

沿岸部に棲息するので1年中狙うことができますが、主にコマセを使って群れを集めて釣ることになるので個体数を激減させてしまう危惧もあり、資源保護の観点から禁漁期を設けている海域もあります。その解禁日ともなるとイサキ釣りを待ちわびていた釣り人を乗せた釣り船やプレジャーボートが数多く海へ繰り出すことになります。

イサキはエサを求めてゆっくり回遊しますが、エサの豊富な好条件の場所には集結し、その場を離れようとはしません。釣り船もプレジャーボートもその好条件の場所を求めて集まり、ポイント周辺には大船団が形成されます。

そこで度々問題となるのが陣取り合戦。

マダイ釣りの様にポイントがある程度広範囲におよぶなら船を潮に乗せながらポイント上をゆっくり流して釣ることができ、ポイントを外れた時点で再び潮上まで船を移動させ、釣りを再開できます。

一方、イサキの場合には分布する範囲が狭く、ピンポイントとなるのでボートを潮に乗せて流すとあっという間に船はポイント上を通過してしまうことになります。

そこで多くの釣り船はスパンカーを効かせ、エンジンの推進力を調整しつつ、さらにスラスタを駆使して船がピンポイント上に留まる様、船長は操船をします。

一方のプレジャーボートの場合にはスパンカーやスラスタを装備していないものも多く、釣り船と同じようにポイントに留まっていることが難しく、釣り船との距離が近づいてしまうことがあります。

釣り船とプレジャーボートのどちらが優先ということではなく、互いが相手を思いやりながら、安全な距離を保ち、海を享受できるよう、共存を意識した責任ある行動が求められます。



流し方が異なる釣り船には近づき過ぎないように注意しましょう